

三叉路で

神野麻郎

息子が死んだ。

わけがわからんうちにあいつはおらんようになってしまった。事故やったんか、天災やったんか。

いや、あいつはまだしたたかに、どこぞに生きるのかわからん。蒸発して、好きなどで好きに暮らして、そのうちふらっと戻ってくるつもりかもわからん。ご機嫌さん、ゆうて。ちよっと遊んできたわ、ゆうて。いつまでも腰のさだまらん、ええ加減な奴やったもんな。きつと、そやろ。そんなとこやろ。なぜゆうて、あの前の晩まで、あんなに元気だった奴が、いつものように酔っ払って俺やカカに毒づいとった奴が、あんなにかんたんにくたばるわけはないのんや。

ああ、そうや。よう親に喧嘩吹っかけてきたな、あいつは。たいした稼ぎもないくせに、大酒くらいやがって、妻子を泣かして、おまけに一人前に親にたてつきよる。そんなことばかりやったなア。カカに言わせれば、子育て間違うたってか？子育ての大事な時期に、俺が女や道楽にうつつぬかしとったからやってか？アホぬかせ。自分の怠慢、棚に上げてからに。あいつらに、まともな手料理、一ペンでもこさえてやったことあんのんか？店でも近所でも、一日中しゃべくりや、でなかつたらテレビに釘付けや。しよむない芸能人のうわさ話ばかりしおって。歌舞伎役者、追いかけてまわして。それで三十年や。三十年やでエ。人生をまったく浪費しとるやんか。それでまともな子供が育ったら、そらその方が不思議ちゆうもんやで。見てみい、娘もおまえとそっくりのおしゃべりや。だらしいう、男の尻ばかり追いかけよる。

「あ、奥さん、おはようさん。ええ天気でんな」

パラソルさして、すまして行きよったで。えらい厚化粧やんか、この暑苦しのに。

俺の若い時期にそっくりやったってか？アホぬかせ。俺はもうちよつと性根す

わつとつたでエ。そら、悪い連れらと遊びもした、親を泣かしもしたが、仕事は若いときからきつちりやった。そやから早う一人前になれたんやないか、早う店ももてたんやないか。そら、まああんなこまい店やったから、しょっちゅう支払いに追われてばかりで苦しかったけど、まあ人並みには稼いできたやないか。あんな甚六と一緒にしてもろたら困りますわ。

あ、坂の下からダンプ来よつた。二台続いとるな。オーライ、オーライ。オーライやで……。ああ、前のはあの気のええ兄ちゃんや。今日も三田からでつか。ご苦労さんなこっちゃ。トンネルの渋滞抜けてきはったんやろ。ホレ、こっち側は車止まってまつせ。あんじょうに曲がつてや。

それにしても、暑いのが。こんな窮屈な制服、脱ぎ捨てて、裸になりたいわ。もう内側、汗だくや。ほんで、水分の補給は抑えとるから、小便も出えへんわ。どれ、日陰に座つとこ。ダンプも、しばらくは来るまい。

年寄りにはきつい商売やで、これは。何がづらいゆうて、真夏の、今日みたいな、カーツと晴れた日の暑さゆうたら、こりやたまらん。

あれこれゆうても、この商売、商売ゆうても日銭で雇われとるだけやけど、もう一年近うになるんやなア。あつちこつちの道路に突つ立って、春夏秋冬を送ってきたわけやがな。我ながら、よう勤まつとるで。感心や。えらいもんや。そやけど、そら真冬の寒気もかなんが、またなア、雨の日に濡れながら突つ立つとるのんもわびしいもんやが、何ちゆうても夏がな、一番こたえよるで。この歳になつて、こないにお天道様にいじめられるとは思わなんだで、まつたく。ほんまに人生、一寸先は闇や。

俺みたいな奴が、あれ以来どつと増えたわけや。見てみい、あれからもう一年半も経つとるちゆうのんに、街じゅう工事だらけやないか。さすがにもう、壊れたままの家やビルはあんまり見んようになったが、どこ行てもどこ通つても工事やつとるし、更地は目につくし、国道にはトラックやダンプや生コン車があふれとるし。異常なこっちゃやで、これは。日本じゅうの土建業者がすよつてきて、はア、よつてたかつてこの神戸の街をいじくつとる具合やで。誰が頼んだんかしらんが、街じゅうで工事のオリンピックやつとるみたいやで。ほんまに、うるさいこっちゃ。年じゅう混雑と騒音で、何やこう、住んどるもんも、気がせいしてもうて、安まらへんわな。もっとゆつくりできんのかいな。

仮に一人の人間にたとえてみたらやな、まあ、あれは大ケガしたみたいなものやろ。大ケガして入院、治療や。そら、快復するまでにだいぶ時間かかりまつせ。

ゆっくり癒したらええわけや。ゆっくり癒す、その間に、これからの人生どう生きたらええかとか、考えて、ええ智恵浮かぶゆうこともありますやろ。ケガがええ経験になって、ちっとは人間賢くなるゆうこともありまっしゃろ。知り合いにも、そんな人間、おりまっせエ。それを、何が何でも早うケガ癒して、もと通りになつて、早う働け、働け、言われてるみたいなものやで、これは。

そら、それぞれ生活もあるやろ。早う、立ち直らないかん事情もいろいろとありまっしゃろ。そやけど、やれ「復興」、やれ「甦れ」、やれ「頑張ろう」、街で目立つのんは、こんな掛け声ばかりや。もうええ加減、聞き飽きたわ。そんなん、見聞きするたび、疲れますな。働け、働けと上から言われる、戦争中と変われへんやないか。どうせゆうなら、「大変でしたなア。まあどうぞ、しばらくはゆっくり休養してくださいよ」、そんな声をしみじみと聞きたいもんや。

皆、早う、ケガのとこ隠してしまいたいんかな。そうせんと困るエライさんたちもいてはるんやろ。そう掛け声かけて金儲けする奴らも仰山おるんやろなア。そしたら静かにさしてくれへんわな。で、こんなんが、まだ数年は続くんやろなア。

で、工事のあるところ、たいてい俺みたいなんがおるわけや。制服着て、帽子被つて、一日中道路のはたに突っ立って、旗振つとるのんが。工事だらけやからガードマンの需要がどつと増えて、警備会社が空前の好景気ちゆうわけやわな。学生のアルバイトみたいなのも多いが、主婦のパートや俺みたいな年寄りのオッサンも、急にどつと増えたわな。仕事失うた連中がしゃあないからやつとる場合も多いゆうことや。そやけどこの商売、若い連中にもしんきくさいやろが、年寄りにも元氣の出えへん仕事やで。

ま、そやけどここはまだましや。よっぽどましや。仲間皆、寄つたらそうゆうとるが、もつともや。山の手ちゆうか、もろに裏がすぐ山や。いわば六甲山の中腹や。山の緑見るだけでもちよつとは涼しいわ。気分ええわ。静かやし。だいたい、車が少ない。ダンプは一日平均で延べ三、四十台いうとこやろか、それさえ無事通してやつたらええんやもんな。あとはこの先、行き止まりやから車量も少ないし、こうしてパイプ椅子にも座ってられるし。あっちの若い兄ちゃんみたいに、椅子で居眠りもできるわ。

前の高速道路の降り口のとこ、ありや、ひどかったで。青信号に変わるたんびに車の洪水の突進や。それをさばかならなんだ。戦場みたいやつたでエ。相方がええかげんな奴やつたら、車が進まんから運ちゃんたちによろ怒鳴られた。そ

の度に、頭ペコペコや。神経安まらへんかったでエ。それに、ものすごい排ガスやろ。マスクに手拭しとつても、いんだら顔も頭も脂べったりやった。さすがに俺もつろうなあって、もうやめたるわいと何度思ったことか。まあ、あそこも二カ月足らずやったけどなア。あそこ思うたら、まあここは天国みたいなことやで。空気がきれいやし。

そやけど、問題は暑さと退屈、や。暑さも暑さやけど、退屈、はあこいつも相当地に厄介なシロモノやで。俺なんかはまあ結局、下町の騒々しい市場で客やカミさん相手にがやがややっとなるのんが向いとる人間なんやな。三十年以上もそんな商売やっとなったんやからなア。そんなこと、この商売やってみて、初めてわかったわ。

その俺が、このごろ無口になったなアなんて、回りの人間に言われる。オヤツサン、オトナシなつて、人間変わってしもてエ。

アホくさ、あたりまえやろ。息子が死んだんや。家つぶれたんや。カカと孫の面倒見たらなあかんのや。息子、借金まで残してくれたんでな、そいで、こんな商売やっとなねん。毎日、日がな一日、話し相手もなしに、ほこりにまみれてこうして道路に突っ立ってまんのや。何で以前のようにアイソようして笑ってられるちゆうねん。ええ加減、気は腐るちゆうもんやろ。これで、正気でおれちゆうのんは、そら無理な相談やでエ。

おっと、ダンプが引き返して来よった。あそこの奥さん、車でお出かけや。「ちよっと待ってくださいよ」。ダンプが先や。それにしても、ゆっくりやな。この地区内は、自治会の申し入れで、時速十キロまでと決められとるらしいからな。振動抑えるのんと安全のためやて。今どき、どこでも自治会は強いわ。業者は行政にペコペコやろ。しかし威張つとるお役人さんたちも自治会みたいなもんには気を使いよる。そやけど、時速十キロやて。仕事になれへんやんか。お、気のええ兄ちゃんが笑うとる。土、満載やなあ。気いつけて行けよ。「あ、奥さんすんませんでしたなあ、どうぞどうぞ」。ああ、怒った顔して行きよった。

退屈。俺は今時間売ってるんやとゆうことがようわかる。ちよっとえらそうに言わしてもろたら、自分の人生の時間を売って金もろてまんのや。時間、九百円ちよっと。日に七千五百円。高いのんか、安いのんか。まあ、俺の人生の時間てなもん、今さらそんなに値打ちあるとも思えへんし。そやから、やっつけられるんや。そやけど、ほんまのとき、高いのんか、安いのんか。安いんやろな、そりや。警備会社がきっちり俺らの上前ハネとるわけや。そやから会社もやっつけていけ

るちゅうわけや。何や、ここの建設会社は俺ら一人を一日配置するのに対して一万五千円もうちの会社に払とると聞いたで。それがほんまやったら、ひどいピンハネやんか。まあ、宮仕えはどこでもそうなんやろうけど。そこいくと、ほんまもんの商売はよかったな。働いたら働いた分だけ稼ぎになったもんな。もうかるももうからんも、自分の才覚と働き一つや。誰も上前、ハネへん。お上以外はなア。

この地区も、だいぶん家が潰れたらしで。そりや、俺らのところに比べたら、よっぽどマシやけどな。静かな、山腹の住宅街やけど、更地も目につくし、建て替えもあつちこつちでやつとる。それに道路の補修もな。そやから、建替えや道路の補修の車が通るわけや。そんな車をさばいたるのんも俺らの仕事ちゅうわけや。

三カ所も裏山が崩れたらしで。そいで、防災用の大きなダムやら小さなダムやらを裏山のあちこちで作つとる。山の斜面の補修もしよる。全部終わるまでに三年もかかるらしで。あすこの山際の大けな家の、気のええオヤッサンがゆうてはつたわ。二、三の建設会社が入って、作業事務所があつちにもこつちにもある。会社ごとに張り合うて、競うて工事やつとるらしい。真面目なこつちや、日本人はな。山の工事も、今日あたり暑うてたまらんやろに。人夫の中には、俺よりか年寄りもいてはるで。きついやろな。そりや、工事の方も、人手不足なんやろ。

あのオヤッサン、俺らより一回りも上やろか、もう隠居しとるぐあいやな。毎日二回、決まった時間に犬連れて散歩に出よる。結構なご身分や。会うたら、大けな声で「おお、ご苦労さんやのう」とゆうてくれる。奥さん、めったに出てこないが、病身なんかもわからん。そのこつちの隣は、何の商売か知らんが、車三台も置いとる。旦那は土曜日になったら、坂道で水どんどん流して車、洗いよる。高そうな外車や。奥さんはたまに自分の車でおでかけや。赤いスポーツカーや。買い物と習い事、友達に会うたりもするんかなア。まあそんなとこやろ。子供二人はもう大学生みたいで、二人ともやつぱり車使て友達と遊びほうけとる。

その隣は、老夫婦の家で、ひっそり暮らしてはる。その向かいが、たぶん学校の先生の家や。カバン重たそやし、メガネかけて風采もひとつやし。出勤の時間、日によってまちまちやから、どっかの大学でも勤めてはんのやろか、と思て、いつか聞いてみたら、そのとおりやつたわ。ええとこあつて、こないだ庭いじりしてはるんで声かけたら、キュウリもいってくれはつたわ。陰気そやけどな。おとなしそうな奥さんと中学生と小学生の男の子二人。そやけど子供らは生意気で、

二人ともそっぽ向いて俺らには挨拶もしくさらないで。教育、いったいどうなつたんのや。

こっち側の角の家は、中年の看護婦さんおる。軽自動車で、昼、出勤することもあるもんな。その隣には大きな声でようしゃべらはる後家のオバハンおって、門から出てきたら聞きもせんのに、近所のうわさ話や身の上話、唾飛ばしてしよう。うるさいのんは、ちよっとうちのカカに似とるとこあるな。まあ、今は退屈紛れてええがなア。

退屈のせいで、この三叉路の近くの数軒のことは何とどのう知れるようになったわ。家の出入りの具合と、風体見とつたら何とどのう何してはる人か、だいたい見当つくちゆうもんや。それに、どんな家なんか、つまりあいじよう暮らしてはる家族か、そうでないのんか、ゆうこともな。何せ、人間相手に三十年以上商売してきたんやからな。俺もだてに歳とつたわけでないわ。

乗用車一台。それにトラックか。後ろからゴミ自動車も来よるで。こら忙し。座つてられへんな。おっと、さっきのダンブも出てきよつた。土満載やで。……

そやけどまア、俺らの下町と違って、全体によそよそしいわな、こんな住宅街は。近所どうしの挨拶ひとつからしてよそよそしいわ。人情あれへん。それぞれが庭付き一戸建におさまって、すましとる感じやで。中流意識ちゆうやつかいなア。

そら、この界限にも、いろんな人間おる。それはどこも同じやが、それにしてもかなんのんは、この角つこの家のオバハンやで。俺らを虫けらみたいに見下しよる。昨日も、車を出るとき、俺が車庫の前の日陰で椅子に腰掛けてちよつとうとうとしとつたら、いきなりクラクション鳴らしよつた。おまけに汚いもん追うみたいにどけどけどと手振りよる。あれ、何やねん。俺ら、犬っころか。犬っころ以下か。スルメのようなツラしやがってからに。ほんま、腹立つで、あのオバハン。

もともとアレが悪かつたんかいなア。ここに配属されるようになってからまだ二、三日のときに、どうにもがまんできんようになってインタフォン鳴らしてトイレ借りたいゆうたんや。そしたらあのオバハン、いやーな顔しよつて、「あんたらの用のトイレ、あるんでしょ」と言いよつた。そこへ間に合わへんから、頼んどんやないか。結局いやいや貸してくれたが、あの見下げた態度、よっぼど怒鳴りつけたろかい思たわ。

それ以来、会うても挨拶してやらんことにしとる。そっぽ向いたるんや。もつとも、向こうもせんが。飼うとる犬までひねくれた憎たらし顔つきしとるで。

俺だけにやない、こないだもその山の口にある工事事務所の人が腹に据えかねて、俺にまで愚痴こぼさったで。あのオバハン、何日か前に工事事務所にわざわざ顔出して、工事車両のせいで振動がひどうて地震で傾いたウチの塀の傾きがさらにひどうなってきたから、工事車両の通る道を変えてくれ、自宅の前は通らんようにしてくれ、自宅の前に駐車されても困る、と文句ゆうたそうや。無理やろ、別の道なんてあらへんがな。去年、地震から三カ月ほどして防災のダム工事が始まったときは、裏山がいつ崩れてくるか恐ろしかった、こやって工事してもろてありがたい、ありがたいゆうたそうやけどな。ダムができて自分のところが安全になったら、もうそれでええんかい、ゆうて事務所の人、怒ったでえ。そやけど結局、監督さんがもの持って挨拶に行て、塀の補修も無料で引き受けてきはったそうや。業者は住民の苦情に弱いからな。県にでも言いに行かれたら、厄介なんやろ。そこへつけこんで、文句の言い得かいな。

旦那はどこやらの会社のエライさんらしいけどな。あのオバハン、「宅から県のしかるべき人に頼んでもええんですけど」ともゆうたそうや。旦那もグルかいな。金のありそうな家なんやから、塀ぐらい自前で修理したらどや。

ああ、もうすぐ、昼やな。またあの下の橋のそばの公園で、兄ちゃんや姉ちゃんといっしょに弁当広げよかい。あの若い兄ちゃんや姉ちゃん、学生のアルバイトやフリーターゆうもんらしいが、集まったらそれらようしゃべりよるで。皆、退屈しとるねんな。俺はその話聞きながら、またベンチに横になってお昼寝や。何や、今日はとくに暑さがこたえるもんなア。頭がくらくらする。

息子が死んだ。

アホな奴やったが、あれでええところもあつたんや。飲んべえでしよっちゆう大口たたきよつたが、俺に似て、情に厚いとこあつたな。葬式のととき、皆、ええ奴やったのになアゆうて泣いてくれはった。もつとも、あんな時やったから、合同の葬式しかできんで、かわいそうやったけどな。俺の一生の心のこりや。

けど、あの嫁はどにもならん。息子、死んで、まだ一年半にしかならへんのに、もう別の男こさえよつた。パートで出とる先で知り合うたんやて。そらな、カカもいうようにまだ若いんやから、一生寡婦でおれとは言わん。いずれ、ええ男がおつたら再婚したらええ、なにせまだ若いんやからな、誰ぞええ男をな、いずれ俺が紹介したらないかんと思うとつたくらいや。そやけど、まだ一年半しか経たへんやで。こないだ、息子の一周忌の法要、すましたとこやないかい。

それに相手が気にいらんわ。土地ブローカーいうやないか。不動産業やつとるゆうとるらしいが、震災のせいで窮した地主の土地安う買い叩いて、高う売つてもうけとる悪い奴らしいやないか。人の弱みにつけこんで、あくどい商売しとるわけや。何で、そんな奴とひつつきたがるねん。あの世で息子が泣いとるで、ほんまに。

まあええ、人はそれぞれや。尻軽女はそやって生きていくのんもええやろ。俺はもう知らん。そやけど子供はどないするねん？まだ小学校にも上がらん子供は。今は、昼間カカが見てやつとるが、そのまま置いていくつもりか？俺らはそれでもええが、かわいがつてやるつもりやが、子供はそれで幸せなんか？そこをどう考えとるのや、あいつは。もつと……。

オツと、生コン車や。今日は生コン車が多いねんな。遅い、遅い。身い固うして、重そうに坂登つてくるとこ見ると、何や戦車みたいなどこある。走りも表情も、固いわ。オーライ、オーライ。排ガス、撒き散らしてお通りや。

オツ、角のスルメのオバハン出てきよった。車でお出かけらしい。また文句いわれんように、椅子をこっちに寄せてと。なに？俺の方、見よるで。何ぞ用かいな。また何ぞ文句あるんかいな。え、何やて？道のあっち側へ行つてくれ、つてか？車出すのに邪魔やし、お客さん来るときも困る、向こうの方でおつてくれ、つてか？イヤな目つきで、きつい言い方しよる。こらもう、がまん、ならんぞ。

「こらオバハン、ここは天下の公道や。あんたの敷地やないやろ。この三叉路の、どこにおると俺の勝手や」。邪魔になるて？「そんなはずあるかい。氣いつけとるわ」。何やて？うちの塀の壁にもたれかからんとつて、つてか。なに、それに溝がくさいつ、てか？「おい、あんた、言い掛かりつける氣イか。俺、ここに小便なんかせえへんでエ。何ゆうとんのや」。てめえ、こら、俺らをバカにしよんのか、承知せんぞう」。オバハン、震えだしよった。あんたの会社、何ていうの、言いつけてやる、つてか？声、裏返つとるやないか。「てめえ、好かん奴つちやなア。いてもたろかい……」。

あ、こりや、ちよつとまづいな。近所の人、窓から顔出して見よる。オバハン、顔引きつらせとる。ああ、憎さげなツラして、そそくさと車出して行きよった。あっちにおつた大学生の兄ちゃん、飛んで来よった。「いや、何でもない、何でもないねん」。

まずかつたかなア。あのオバハンのことや、会社調べてほんまに言いつけよるかもわからん。イヤ、きつとそうするでエ。そしたら俺、すぐ首やろか。事情も

聴かれんとな。住民とのトラブル、ご法度やもんな。住民とのトラブル、あかんで繰り返し聞かされとるもんな。そういえば、実際そんなんで辞めさせられた奴もおったわ。まづかったかなア。

ええわい。首なら首で、ええわい。あんなだけ言われて、バカにされて、黙ってられるかい。あれで黙っとつたら、男がすたる、人間がすたるちゆうもんや。この商売についてからいろいろ怒鳴られたこともあったけど、こんなイヤな経験、初めてやで。アイツみたいなのが、世の中、おるねんなア。自分の都合ばかり考えて、他人への思いやりちゆうもんが微塵もないヤツが。そんな、人間とちやうでエ。人間のカツコした、人間以外のもんやろ。

事情あつてな、夏の暑い盛りに、ええ歳したオッサンが、こないして一日中道路に突っ立ってまんのや。ちよつとは同情ちゆうもんがないんかい。大変やね、がんばって、くらいのことが言えんのかい。暑いですやる、冷たいお茶でも一杯どないですか、ゆうてくれても、全然バチ当たらへんでエ。

情けないもんやないか、人間ちゆうもんは。あんながラクして威張って暮らしとつて、俺みたいなのが、なんもええこともなしに、暑い盛りに汗流してほこり被つてこないなとこに突っ立つとる。それで、バカにされて。理不尽なこと、言われて。涙出てくるわ、ほんまに。息子、死んだんやで。息子の嫁、出て行くゆうてるねんで。この歳でまだカカと孫、養わなあかんのやで。息子の残した借金もあんねんで……。

ああ、頭くらくらするわ。気が遠なつてくる。世の中が俺から遠ざかっていくみたいや。ここはどこやねん。いったいどこやねん。何で俺、ここにおるねん。

暑いわ。日差し、きついで。体をじりじり焼きよる。そやけど、あそこの壁の日陰にはもうおられへんしな。もう、汗も出えへん。目も、何や、かすんできたようや。

また生コン車、登ってきよる。音、いつもより小さいな。オーライ、オーライやで。おーい、そちの学生の兄ちゃん、生コン来よるで。わかってくれたんかいな。わかつとんのかいな。

どれ、また座つてよか。立つとるのんはきつい。こないにしんどの、体に力入らんの、初めてや。

ああ、こうしておると、日に焼かれとるちゆうのに、何でか頭に昔のことばかり、浮かんできよる。なつかしなア。

昔は、まだよかったわなア。子供がまだこまかったころ、俺も元気やった。カカも若うて。そら、いつも貧乏しとって、ラクやなかったけど、何やこう、希望あったわな。生活のうるおい、ちゅうのんか、そんなもんがなア。

息子や娘連れて、夏は一回は海に泳ぎに行たなア。商売の車飛ばして、日本海や。海、青かったなア。秋は弁当もって運動会や。近所の連中も、にぎやかに。息子も娘も、そらかわいかったで。

運動会なア、また二人とも、俺に似て足速かったんや。勉強はあかんかったけどな。こう、ゴールのところで、息子が気持ちよう先頭きるんや。風と一緒に走つとるみたいに、気持ちような。カカと応援しにいて、声張り上げて応援して、すつとしたわ。近所の連中に、鼻高々だったなア。

そや、よう球場へ野球も見にいたなア。子供がまだよちよち歩きの頃から、帽子かぶせてな。おお、ホームランや、坊、すごいやろ、おもしろやろ、ゆうてなア。あいつ、笑うて手エたたきよった、こまい、餅みたいにふくらした手エしてな。勝つたら、坊肩車して歌うとうて、帰って皆と祝杯や。負けたら、ヤケ酒や。カカ、文句ばかり言いよった。坊を少年野球にも入れて、応援に行て。

休みの日に、市場の連中と連れ立って六甲山にハイキングにも行たし。毎年、ボーリング大会やら、カラオケ大会やらもあったなア。こう、こまい娘がマイクもって歌うんやな、こう、マイク握って、フリつけて。カカと一緒によう笑わしてもろたで。カカは、この子、歌手になれるで、やて。ウチの果たせんかった夢、この子が果たしてくれるかもわからんなア、やて。真顔で言いよった。親バカもええとこやで。

あの頃は、よう、いろいろとやったもんやなア。生活、苦しかったけど、カカをよう泣かしもしたけど、家族が一つで、皆元気やったわな。子供、大きくなつていくのが楽しみでな。二人の誕生日には必ず、あの台所の柱の前に子供立たして、背え測って。子供、お父ちゃんも、測つたるゆうて。お父ちゃんはなんぼ測つてももう変わらんゆうてるのに、それでも測りたいゆうて。今思い出すと、あんなこと、夢のようやで。全部が夢のようやで。あの柱もすつかりのうなつてしもうたんやからなア。息子もおらんようなつてしもうたんやからなア。もうあれが現実やったという、証拠、なーんも残ってへんのやからなア。

ダンプ、上がって来よったな……。そやけど、もうええもうええ、もうしんどいわ。ここで、座ったまま、旗降らしてもらいまっせ。ラクさしてもらいまっせ。俺ももう十分長う人間やってきたんやからな、ええ歳なんやからな、よろしやろ。

オーライ、オーライ。曲がってよろし。不思議やな、ダンプそば通ってるのに、音小さい。耳がどうにかなくてしもたんか。ま、静かでええけど。

喉、渴くわ。きつい直射日光や。オッサンよう、水分とらな、日射病になってしまいまっせエ。カカが朝、もたしてくれた水筒、どこに置いたんやろ？どこやるな。見つからへん。そやけど、また飲み過ぎると、トイレ行かならんし。いやいや、オバハンよう、その溝に、俺、小便なんぞしてまへんでエ。その山の登り口のところでしたことはあるけどな。きつと、犬がしてるんですやろ。ああ、情けないこっちゃないか、あんなふうに言われて。この俺にやで。長い間人間やってきた、このオッサンに向こうてやでエ。

それとも、こう頭が重たいのんは、ずきずきしてくるのんは、夏風邪やるか。いやいや、まだくたばりまへん。まだまだやで。こんなことではな。家にカカ、待つとる。あの狭い賃貸アパートにな。あそこにも今、きつい西日、あたつとるやろな。カカ、今ごろ何しとるやろ。

カカ、かわいそうに、あれ以来、すっかり精気なくしてしもて、よう立ち直らんとおる。いつまでもそないに息子のことゆうてても、息子帰って来るわけやない、もう忘れんかい、ゆうてもあかん。まあ、そら、無理ないけどな。歌舞伎役者追いかけるのんも、ぴたつとやんでしもたし、好きなテレビ見る気イもせえへんらしいし、元氣ないんや。第一、店なくしてしもて、仕事のうなったのがいかんわ。カカにも俺にも、毎日、店に出て働いとるのんが、体にも心にも合うたええリズムやったんや。それがのうなつてしもうて、カカ、このごろ一日、昼間ちよつと孫見とるだけで、じいっとしとるのがいかんわ。髪の手当もせえへんし、皴も増えてこのごろよつぽど年寄りじみてきたで。

そや。もうちよつと涼しいなつて、休み取れたら、どこぞ近場の温泉でも連れていったろかい。ちよつとは気イ、晴れるやろ。

そやけど、何や、だんだん気い遠なつていくでエ。ほんで、体軽なつて、宙に浮いとる感じや。妙な具合や。目エ閉じたら……ああ、誰ぞの顔が見える。何や、オカンやないか。

死んだオカンや。若いなあ、まだ、オカンの顔。俺の子供のときの姿しとるで。なつかしなア。ああ、おるおる、子供の俺が。オカンに手エつながれて歩いてるわ。どこ行くんやろ。

なあ、オカン、どこ行くんや。どこ連れて行ってくれはるねん。遊びに行くんか。どこでも、ええけどな。あつたかいなア、オカンの手エは。俺、こんなオカ

ン、大好きやってん。

俺、子供るとき、喘息で、ようオカンに手エつなされたり、背負われたりして、近所の医者に連れていってもらたやろ。医者はイヤやったけど、かもてもらうの、嬉しかったん。それから、浴衣着て、夜店も連れていってくれたやろ。雨の日に、家で、糸電話してくれたことあつたやろ。ウチワで仰ぎながら、寝かしつけながら、歌うとうてくれたやろ。銭湯の女風呂で体洗ってくれはつたやろ。

俺、オカンにはよう怒られたけど、オカンはいつでもできのええ兄貴ばかりかわいがりはって、俺、怒られてばかりやったけど、それでも俺、オカン、好きやってん。ひねくれていっぱい反抗もしたけど、ほんまは大好きやってん。わかつたやろ、ようわかつててくれてはつたやろ。

なア、どこ行くつもりや、オカン。この道、暗いやないか。暗すぎるやないか……。